

# 共同製作で一つの世界を作り上げる 実践例に基づいた一考察

～ 4, 5 歳児クラスにおける図鑑を見て描く活動を通して～

難波 章人、難波 瑞穂\*

## A Study Based on the Practices that Make up One World in Collaboration

～Through Activities that Draw a Look at the Picture book

in 4 and 5-year-old class～

by

Akito NAMBA

Mizuho NAMBA

【キーワード】 図鑑、自然、観察、共同

---

受理日 平成 28 年 10 月 31 日

純真短期大学こども学科 講師

\* N 保育園、V 保育園 造形講師

## 1. はじめに

筆者は平成 25 年に、J 保育園にて 2 歳児のクラスにてコラージュを取り入れた平面の製作活動を基にした論文「2 歳児クラスにおける色と形からイメージを広げる造形活動の実践研究」を執筆した。また、平成 26 年度には、3 歳児クラスにコラージュを取り入れた平面の製作を通してイメージの広がりについて観察を試み、論文「3 歳児クラスにおけるイメージを広げる造形活動の実践研究～色と形と言葉からの連想～」を執筆した。

平成 28 年度には、N 保育園、V 保育園の 4 歳児と 5 歳児クラスにて造形活動を担当し、今年度の新たな試みとして 4 歳児、5 歳児を対象に図鑑を見て絵を描き、その絵を使って共同製作に展開させる活動を行った。本稿ではこの活動の方法と園児たちの作品から実践事例を挙げて考察していく。

図鑑に触れることで自然の生き物に対する興味関心が養われ知的な好奇心が育つ。日常で目にしている昆虫や花などについての知識が増えることで今後、よりじっくりと自然を観察する目を養うことができると考える。この図鑑から自分の描きたいものを自分で選びじっくり観察しながらスケッチをするという体験は適していると考えられる。

図鑑を参考にスケッチしたものを大きな模造紙に貼り、グループに分かれて共同製作する。4 歳、5 歳では共同製作をすることができるようになり個人では味わえない大きな完成の喜びがある。指導にあたっては劣等感を抱かせないようにし、お互いに協力し合って活動するよう援助していきたい。

## 2. 実践方法

### 図鑑を使用したスケッチの方法と手順

実践名：造形教室

日時：N 保育園 4 歳児クラス 8 月 1 日， 9 月 8 日， 10 月 19 日

5 歳児クラス 8 月 22 日， 9 月 9 日， 10 月 21 日

V 保育園 4 歳児クラス 8 月 29 日， 9 月 12 日， 10 月 17 日

5 歳児クラス 8 月 10 日， 9 月 13 日， 10 月 24 日

(全て 2016 年に実施)

場所：N 保育園、V 保育園

対象：N 保育園児 4 歳児クラス 20 名×2 クラス、5 歳児クラス 20 名×2 クラス

V 保育園児 4 歳児クラス 15 名×2 クラス、5 歳児クラス 15 名×2 クラス

支援者：クラス担任の保育者

活動時間：30 分間 (全 3 回)

以下に製作手順を示す

- ① 活動を行う 1 ヶ月前に、自然をモチーフにして絵を描くことを伝える。

描きたい動物、虫、花などおおまかに決めて、動物園や水族館などに行ったこれまでの体験からイメージを膨らませる。

② 活動前に『どうぶつのおかあさん』の絵本を読んで動物をイメージさせる。

③ ハツ切り画用紙に鉛筆で下書きする。



図鑑を見ても描けないという子どもには、図鑑を見せずに自由に描かせる。また、自由に描けないという子どもには、具体的に形を描くよう支援する。描くモチーフは1つ～3つ、好きな大きさに自由に描く。今後、図鑑を見て描いた動物や虫や花などの対象物をモチーフと呼ぶ。

図鑑は「昆虫」「鳥」「魚」「植物」「動物」などを参考資料とする。また、保育園で使用していた絵本や資料なども利用する。図鑑を見て、カブトムシの足は何本か、猫の横顔はどうなっているのかなど、子どもたちが戸惑っている時には保育者が助言し描きやすいように指導する。また、図鑑を見て子どもたちが興味を持つよう助言する。

④ 色鉛筆で着色する。



色鉛筆で自由に着色する。図鑑を見て色を参考にさせる。

⑤ 描いた周りをはさみで切る。



細かい部分をはさみで切るのは難しいので保育者が丸でおおまかに囲み、はさみで切る部分を分かりやすく示す。小さく、また細かく描いたモチーフはまとめて一塊にして切ることを園児に伝える。

4歳児の中には、はさみを使い慣れていない園児もいるため、はさみの刃の上に指を置かないように伝える。また、モチーフを切ってしまうないように線の外側を切るよう声掛けをしていく。

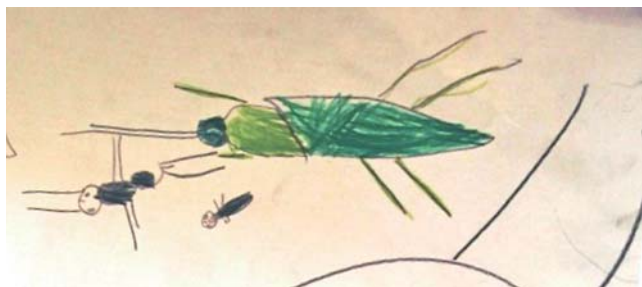
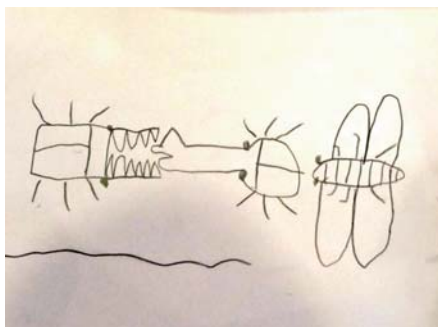
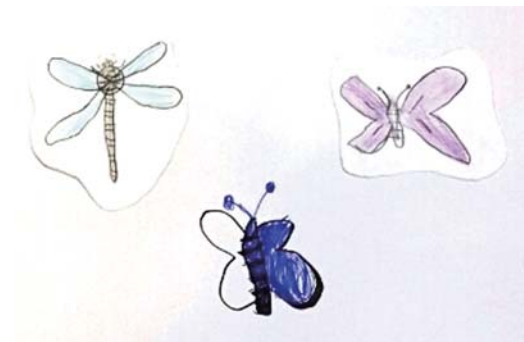
⑥ モチーフの裏面に両面テープを貼りつけ、模造紙に自由に配置して貼りつける。モチーフが完成した順に4～5人で共同製作を始める。

⑦ 共同製作で作品を仕上げる。

1. 4,5人のグループに分かれ、共同で5歳児には「〇〇の国」というテーマ、4歳児には「〇〇の家」というテーマで描く。  
虫の国、動物の国、うさぎの国など話し合い、グループ製作を行うよう口頭で説明する。さらに、具体的な参考例を見せ、イメージを膨らませる。
2. 模造紙B1の半分の用紙を好きな大きさに形を切る。
3. 図鑑を見て描いたモチーフを模造紙の上で自由に配置し、裏面を両面テープで貼りつける。
4. 水性ペンや色鉛筆やクレパスで着色し、自由に仕上げる。

### 3. 図鑑を観て描いた園児の描画

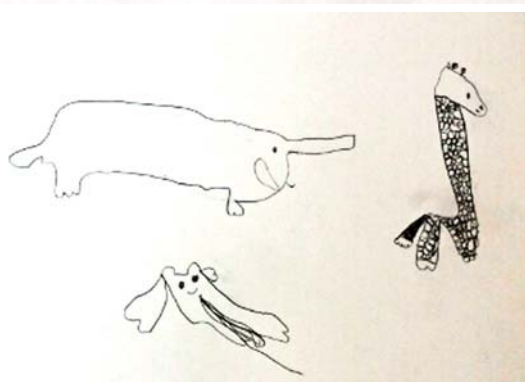
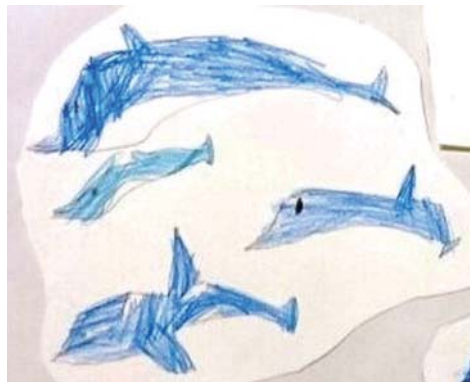
#### ① 昆虫を描いた園児の作品



クワガタ、カブトムシ、カナブン、バッタ、セミ、トンボ、クモなどが描かれている。昆虫の手足の付け根や虫の形をよく見て描いたことが分かる。また、着色の作業ではそれ

ぞれの昆虫をよく見て、限られた画材の色の中から選んで塗り分けている子どもの姿が見られた。

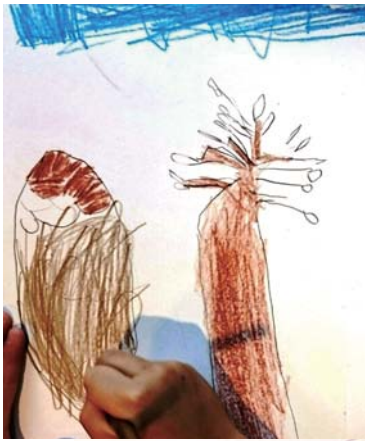
② 動物を描いている作品



図鑑によっては描きづらい角度で掲載している動物もあるが、園児の中には、分かりやすい写真を探し、何度も工夫して描き直す粘り強い姿も見られた。

他に、図鑑を見て形を描こうとする園児もいる一方で、園児たちの頭の中にある動物のイメージを描こうとする園児も多かったように感じる。これは、日頃から園児たちが動物をよく描いているからかもしれない。また、園児の中には、自分なりの動物のイメージを描きながら図鑑を観て動物の模様だけを詳しく描きこんでいく姿がみられた。こうした方法の絵はユーモラスな表現となっていた。

## ③ 花や植物を描いている作品



木や花、自然を描くことは慣れており、図鑑を見ながら生き生きと自分なりに自然を描いている園児が多く見られた。また、自分や母親など人間も描きたいという自由な発想も見られた。

## 4. 共同製作した作品からの考察

## ① 5歳児のグループ作品



5歳児には共同作業を行うにあたって「一つの国」というテーマを与えた。左の作品から分かることは、園児たちは横断歩道やはしごを描くことで自分たちのモチーフ（生き物）同士をつなげていることが分かる。また、模造紙をはさみで切って全体の形を構成している。例えば、写真の右下には、はさみで模造紙を切りこんだ箇所

に橋をかけて工夫している。

このように、このグループでは、園児たちの描いた生き物がそれぞれの棲み家を持ち、一つの町に暮らしているようなイメージを描いている。

② 5歳児のグループ作品



グループ製作画面の左上にひらがなで「すたあと」と書かれてある。全体をボードゲームのようなイメージで構成したことが分かる。園児たちは自分たちのモチーフをすごろくのように道でつなぎ、楽しんでいる。「ごーる」という文字が絵の中央の下部に書かれてある。園児たちは、ゴールに向かう途中で分かれ道を作ったり、交差させたりしながら全体を構成している。

このように、このグループでは、各自のモチーフをコマに見立て、すごろくのようなイメージをもとに、共同作業を進めながら、友達同士話し合いこのような形に仕上げていった。

③ 5歳児のグループ作品



女の子全員のグループで製作されており、話し合いながらお互い協力し、製作を進めていた。人間を中心に動物や花などが配置され、画面を構成している。色とりどりに装飾されていて、正面を向いているものが多い。また、モチーフを並列的に配置している様子が見られる。

太陽や虹は画面上部、鳥や蝶なども画面上部に配置されている。どれも表情が豊かで、明るく楽しい表現となっている。また、矢印が加えられ画面に工夫が見られる。

④ 4歳児のグループ作品



花や蝶々、または太陽などの自然物を描いた作品である。花が下部に貼られ、太陽を左上にまとめて貼られている。これは、模造紙を全体として捉え、地面と空を空間の中で意識して構成している。

左端にサインペンで木の描画が見られる。また、右端には何色も重なった木のような抽象的なものが描かれている。

が描かれている。

このグループでは、モチーフの種類を分類し、まとめて貼り付けている。ゆえに、基底線を感じさせる空間を作りだしている。(基底線とは、地面を表す1本の線で、これによって絵に描かれたものが、画面の中で位置関係を獲得する。)<sup>[註1]</sup>

⑤ 4歳児のグループ作品



4歳児(年中)は、モチーフを関連づけたり、分類していく作業が曖昧で、各自、自由に描きたいように描いている。

また、共同作業をするうちに、作業が単調になり、サインペンで描きながら始めた。そこで、モチーフにはみ出さないため、きりの良いところで終わらせた。このグループでは自分たちの描いた

生き物の周辺を自分の好きな色で色付けを行うことが多いことから、自分のなわばりを意識した描画活動が中心であったと言えよう。



## ⑥ 4歳児のグループ作品



画面右側にはモチーフを囲むような線が多く見られる。サインペンでモチーフを一つずつ囲む作業はモチーフを強調しているかのようだ。

画面左上を見ると家が描かれたモチーフの周りにオレンジ色と黒色のサインペンで非常に強く着色されており、これも、モチーフを強調しているように見える。

このように、園児たちは自分の座った位置から見て画面の上下を決めて描画の作業を進め、上記⑤のグループ同様、自分の手の届く周りをテリトリーとしながら描画活動を終えていることが分かる。

## 4. 総括と課題

5歳児については、図鑑をじっくり観察して丁寧に描きたい欲求が強く、30～60分ぐらいの時間をかけて仕上げようとする気持ちが強い園児が多かった。これが描きたいという強い思いがある園児たちは日頃から動物や虫に詳しく、描く行為に憧れていて図鑑を見てすぐに描くことができた。細かい形なども丁寧に描くことができ、とても意欲的に取り組んだ。また、着色に関してもこうしたいという思いが強く、自主的に長時間集中して取り組むことができた。

描きなれていない園児、慎重な園児は、迷ったり考えたりする時間が長く、また、描き方が分からないと悩む場面では、具体的に描き方を示し、着色についてもこの色を塗ってみようなどと具体的に支援を行った。また、動物、虫などに限定せず、人物（本人や家族など）も描いて良いとして、描きたいという意欲を損なわないように配慮した。

5歳児では話し合いながら共同製作をスムーズに進め、お互いの絵を関連付けて配置し、画面全体を構成しようとしていた。はしごを渡したり、迷路に例えて描いたり、分類して配置したりと工夫がみられた。また、模造紙を切ったり、貼ったりも工夫して構成することができ、共同製作しながらイメージを発展させ描き加えることができた。そして、友達同士で話し合ったり、苦手な所は手伝ったりと協力し合うことができた。例えば、モチーフを両面テープで貼りつけたり、テープをはがす作業が難しく、お互いに手伝ったり協力するような場面である。また、図鑑を見て描く集中力や、共同作業で仕上げる持続力などがとてもよく見られた。

4歳児には、図鑑を初めて見る園児もおり、参考程度に図鑑を与えた。図鑑が便利で面白いものだと気付かせる機会になれば良いと思う。図鑑にとらわれず、自分なりが描きたいように伸び伸びと描く園児たちが多かった。しかし、描けないと悩む園児も多く、時間

もかかった。自分のイメージでぐいぐいと描く力は4歳児に特に見られ、とてもユーモアにあふれた幼児らしいモチーフが多岐に見られた。この生命感あふれる子どもの持つ感性を伸ばして大切に支援しなければいけないと感じた。

4歳児で描けずに困って悩んでいる園児に対しても具体的に描き方を示し、着色についても具体的に支援した。はさみを使うことが難しくまだ慣れていない児童も多く見られるため、丸で囲み細かいところを切らなくて良いよう指導した。また、丸で囲む際、どこからどこまでを丸で囲みたいのか希望を聞きながら進めていった。4歳児には両面テープを切ったり貼ったりする作業が難しいため、保育者がある程度支援し、画面に貼るところは園児に考えさせながら貼らせた。4歳児については技術面や意欲的な面も個人によって差があるため個人の進め方、取り組み方によって保育者がその都度、園児に合わせて支援した。また、共同作業で作品を貼り付け後、サインペンなどで自由に描画する際、お互いのモチーフの関連性を意識して描くというよりは、個人で描きたいように描くことが強いいため、モチーフを壊さないよう完成させる必要があった。日頃、個人で描くことが多いため、初めての共同作業になったと思われるが楽しみながら活動できていた。

本稿での実践では、図鑑を観て描くことが4歳児、5歳児にとってどれ程、興味関心があるか描画活動を通して分かった。日頃から昆虫や動物、草花などの自然の生き物に興味がある園児が多く、また、動物園、水族館などにも行った体験がある園児が多かったため、導入もスムーズにできた。しかし、興味関心はあるもののいざ描くとなると戸惑う園児も多く、描けずに悩んでいる園児も見られた。逆に、図鑑を興味深く見ながら緻密なスケッチをして多くの動物や自然を詳しく描く園児もいた。この、見たものをそのまま形として表現する能力は大変難しいものでこの時期から得意、不得意がある。4歳、5歳という年齢から不得意であると感じさせないように保育者は配慮しながら、なによりも描けた時の喜びを味わうことができるよう支援するべきであろう。全ての園児たちに描けるように指導するのは時間もかかり思うように対応ができなかったことが課題として挙げられる。

また、共同製作することで、活動のはじめは戸惑ったりしたが、作業を進めるうちにお互いに協力し楽しんで一つの作品を作り上げることができた。今後も人と人との関わりの中で作品づくりをする喜びを感じられるような製作方法を取り入れていきたい。

今後も子どもたちの見る力、そして、それを自分なりに表現しようとする意欲を引き出すことを念頭に子どもたちと共に豊かな造形活動を継続していきたいと考えている。

## 謝辞

4、5歳児クラスの園児たちへの造形活動で御支援いただきましたN保育園、V保育園の先生方に感謝の意を表します。

### 引用・参考文献

- 1) 若元澄男(編), 『図画工作・美術科 重要用語 300 の基礎知識』, 明治図書, 2006, p. 34
- 2) 小森厚、藪内正幸, 『どうぶつのおかあさん』, 福音館書店, 2009
- 3) 株式会社小学館, 『小学館の図鑑NEO [新版] 昆虫』, 2015
- 4) 株式会社小学館, 『小学館の図鑑NEO [新版] 動物』, 2016
- 5) 株式会社小学館, 『小学館の図鑑NEO [新版] 植物』, 2002
- 6) 学研教育出版, 『はっけんずかん うみ』, 2015
- 7) 学研教育みらい, 『スーパーワイドずかん どうぶつ』, 2013
- 9) 文部科学省(編), 「幼稚園教育要領」, 2008
- 10) 厚生労働省(編), 「保育所保育指針」, 2008

### N 保育園児、V 保育園児のその他の作品

